

令和4年度事業実施報告

新型コロナウイルス感染症感染拡大が4月から7月にかけては小康状態にあったことから、概ね計画どおりに事業を実施することができたが、8月以降は若年層を中心に感染拡大が顕著となったため、計画していた事業の中止も散見された。

活動を行うにあたっては、参加者の地域限定や人数制限、当日の検温、体調確認、チーム内の共有物を少なくし、参加者が密にならないようにするなど、感染防止に万全を期して実施した。

海岸漂着物、海洋プラスチックやマイクロプラスチックの問題への関心が高まるなか、引き続き、最上川フォーラムの活動に対する問い合わせや連携の申し出等も増えた。

最上川フォーラム設立20周年事業に位置付けて取り組んだ「第26回水シンポジウム in やまがた」(7月21日・22日)については、約300名の参加を得て盛会裏に開催され、県内の活動団体や関係機関による討論をとおして最上川流域における「暮らし、環境、文化」の保全継承に関する多くの示唆を得ることができた。

最上川フォーラムの運営基盤強化の一環として検討してきた法人移行について、「法人設立検討委員会」における協議の結果、法人移行は時期尚早との結論に至った。今後は、現行体制を維持しつつ運営基盤強化に取り組んでいく。

将来を担う世代の育成《教育・啓発》

1 身近な川や水辺の健康診断

(1) 実施状況

①実施検討会

4月20日に開催し(We bでの参加可能)、実施体制や調査マニュアル等を決定。

参集者：地域部会、大学、地域で環境保全活動に携わっている方々、国・県の行政機関

②調査期間

例年のように、世界環境デーに合わせて6月4日～12日を原則として調査期間を設けるが、新型コロナウイルス感染症や天候不順などの状況に対応して、10月21日までとし、安全に実施できるよう期間を延長した。

参加申し込みは、原則の調査期間にあわせて5月20日までと設けるが、調査期間に合わせて、期間中随時申し込みを受け付けた。

③主な調査内容

- ・透視度計(1m)による透視度調査
- ・パケットテスト(簡易水質検査器材)による水質調査
6項目：pH、COD、アンモニア性窒素、亜硝酸性窒素、硝酸性窒素、リン酸性リン
- ・水辺環境(ゴミや川の中や水辺の生きもののすみ場の様子など)の簡易目視調査
- ・水生生物調査：山形県環境科学研究センターと連携し、希望グループについては身近な川や水辺の健康診断との同時申込み可能。

④参加申込み 84団体・1,279名・256箇所(前年度：72団体、1,212名、205箇所)

⑤調査実施結果 80団体・1,261名・252箇所

前年度に比べ、特に学校関係の申し込みが増え、参加団体数・調査箇所数も増加した。

※（ ）内の数値は、令和3年度状況

	置賜地区	村山地区	最上地区	庄内地区	計
実施団体数	17 (14)	37 (29)	11 (10)	15 (14)	80 (67)
調査箇所数	61 (45)	100 (78)	41 (34)	50 (43)	252 (200)
参加人数	338 (249)	440 (529)	279 (247)	204 (247)	1,261 (1,272)

年度別実施状況

	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24
団体数	124	83	108	116	110	100	85	80	95	101	97
人数	803	929	1060	1271	1181	1213	890	1055	1227	1028	978
調査 地点数	346	285	284	298	287	217	215	221	259	257	256

	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	R2	R3
団体数	100	95	93	89	87	82	85	65	67
人数	934	1025	985	1213	1212	1056	987	801	1272
調査 地点数	258	243	250	257	259	244	232	192	200

(2) 事業に対する支援

①パケットと比色カード (COD 以外の 5 項目)

国土交通省東北地方整備局山形河川国道事務所、酒田河川国道事務所、新庄河川事務所

②公定法調査協力

公益社団法人山形県水質保全協会、一般財団法人山形県理化学分析センター、株式会社テトラス、東北環境開発株式会社、株式会社東北サイエンス、株式会社理研分析センター

(3) 参加者への現地調査サポートについて

参加団体からの要請に応え、清流環境対策部会部会長、副部会長・事務局始め、会員専門機関や地域部会長、地域部会の活動団体等の協力により、学校を中心に、22 団体に事前指導や現地等にて水質調査指導や調査全般のサポートを実施した。昨年度に続き、大人数の学校でのサポートも実施。さらに要望に応じて調査結果についてのフォロー授業も行った。山形県環境科学研究センター主催の水生生物調査と同日実施の学校では、連携してサポートを行った。

(協力会員等) 公益社団法人山形県水質保全協会、一般財団法人山形県理化学分析センター、千門町蛍の会、升形川に親しむ会、桧町アダプトの会、心のふるさと新井田川の会、株式会社理研分析センター、

(4) 調査結果集計については、例年どおり公益社団法人山形県水質保全協会の協力を得て、レーダーチャート等を作成し、ホームページ上の報告書「笑顔を写す山形の川」に掲載。

概要版として全県のデータを 1 枚の河川地図上にまとめたものを印刷し作成した。(別添)併せて、フォーラムホームページ上に「水辺水質マップ」として掲載。

(5) CODについては、国土交通省と市民団体が連携して実施する「身近な水環境の全国一斉調査」の一環として 50 地点分の器材の提供を受け、50 地点分の調査結果を提出した。

2 スポGOMI大会の開催 (別紙資料1参照)

海岸漂着物問題対策の普及啓発の一環として、市町村や地域の団体等と連携して開催。

スマートフォン等も活用し、広域での同時開催により内陸域でも海ごみ問題を身近に感じる機会を提供した。

スポGOMI大会と啓発資材の活用やワークショップ等と組み合わせることにより、SDGsの取組み、企業のCSR活動、学校や団体、企業が行う環境ツアーとして、環境教育プログラムを提案した。

- (1) 庄内の地域団体及びNPO法人と連携し、学校及び旅行会社にプログラムを提案。

(令和3年3月)

- (2) 企業や団体との連携強化

スポGOMI大会等へのボランティア参加、運営参画を推進。

株式会社JTB、ゆらまちつく戦略会議、(株)安藤・間、三郷堰土地改良区、

NPO法人公益のふるさと創り鶴岡、NPO法人パートナーシップオフィスなど

3 海岸漂着物やマイクロプラスチック問題等の啓発 (別紙資料2、3参照)

- (1) 海岸漂着物問題普及啓発出前講座

「身近な川や水辺の健康診断」等の実施と併せ、小中学生等に対して出前講座を実施した。

- (2) ゴミ回収体験やパネルやゴミ標本を活用した環境教育プログラムの推進

環境教育のためのゴミ標本や啓発資材の貸出し、出張やオンラインでの説明を行った。

マルシェや商業施設でのイベント等で、ゴミ削減、海岸漂着物問題啓発ワークショップ、説明を行った。

スポGOMI大会、クリーンアップや水辺の健康診断等との組み合わせによる環境教育プログラムを提案した。

- (3) 海と日本プロジェクト in 山形実行委員会、海と日本プロジェクトとの連携、協力事業

スポGOMI甲子園、山形の海洋ごみを考える日、モンテディオ山形等での啓発、海ごみカフェ、SNSや動画を活用した啓発を行った。

- (4) ホームページ

参加募集中の事業について、見やすいようにホームページトップページにコンテンツを作成した。

- (5) SDGs関連事業

5月 山形県立図書館「図書館からSDGs」ワークショップ

山形大学基盤共有教育YU empower with SDGs ～ローカルSDGsの実践～

6月 山形県青年の家「SDGs×スポGOMI」

9月 TOYOTA SOCIAL FES2022!!

10月 映画「マイクロプラスチック・ストーリー」上映

1月 白鷹町西根地区コミュニティセンター 菜の花プロジェクト研修会

講師：安部、50名

3月 白鷹町寒河江地区コミュニティセンター 最上川229ネットワークと共同で参加

講師：安部、55名

2月 東根市やんばい東根クラブ 「映画マイクロプラスチックストーリー日本語吹き替え版上映」協力、50名

4 報告書「笑顔を写す山形の川」

- (1) 「身近な川や水辺の健康診断」、「美しいやまがたクリーンアップ・キャンペーン」の結果報告を作成し、ホームページにデジタルブックとして掲載し、Web上で報告した。

- (2) 「身近な川や水辺の健康診断」については、全県の結果を1枚の河川地図上に表した概要版(別添)を作成印刷し、次年度募集にあわせて実施団体や学校等へ配布する。

5 最上川河川愛護意識啓発活動効果調査

山形河川国道事務所からの委託事業として、最上川の河川愛護意識啓発活動に関する効果調査及び河川愛護意識啓発活動に関する資料整理を行った。

- (1) 「川をきれいにする児童図画」の応募図画の整理、とりまとめ
- (2) (1) に応募実績のある学校関係者を対象にアンケートによる意識調査の実施
- (3) アンケートの結果をもとに啓発活動の提案

地域の環境保全と安心づくり《課題解決》

1 美しいやまがたクリーンアップ・キャンペーン

(1) 実施状況 通年募集して3月末まで実施

68グループ 797名参加

※ () 内の数値は、令和3年度

	置賜地区	村山地区	最上地区	庄内地区	計
参加 団体数	15 (6)	28 (21)	5 (3)	20 (11)	68 (53)
参加人数	219 (188)	326 (196)	82 (61)	170 (283)	797 (683)

年度別参加状況

	H14	H15	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24
団体数	6	17	21	58	49	50	50	49	55	65
人数	—	—	—	1839	1019	1000	1700	973	1347	1523

	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	R2	R3
団体数	59	53	53	53	49	65	52	53	41
人数	1843	1510	1348	2246	1517	1485	1130	743	683

(2) データカード作成に御協力いただいたグループの活動経費の一部を支援。一律3千円

(3) イベントとのコラボレーション (別紙1～3)

スポGOMI大会や海岸漂着物問題普及啓発事業との併催を推進。

(3) 最上川上流におけるクリーンアップ活動の実施

昨年度に続き、山形河川国道事務所からの委託事業として、長井市、白鷹町、朝日町、寒河江市、天童市、河北町内の8か所において清掃活動を実施し、ゴミ数をカウントしてグラフ化。

(7月27日、29日、8月1日)

(4) クリーンアップ全国事務局や全国川ごみネットワーク主催の「全国水辺のごみ調査」に11月末までのデータを提供した。全国川ごみネットワーク主催「水辺のごみ見つけ!」にも一部データ提供。

(5) 結果報告は、Webで公開。

2 散乱ごみの発生抑制対策の推進

(1) 商業施設等での海岸漂着物問題の普及啓発の実施 (別紙資料参照3と同じ)

会場を屋外にしてパネルや見本の展示を行うなど、新型コロナウイルス感染症対策をとった実施内容を検討した。マルシェ等のイベントにも積極的に出展し、ゴミ箱の近くで展示を行い、海洋へのゴミの流出、家庭のゴミの削減や日常生活から取り組める活動を提案した。

(2) 令和3年度作成した動画や啓発資材の活用

(3) 山形県海岸漂着物問題推進協議会への参画

山形県海岸漂着物対策推進協議会の構成団体として、総会等に参加し提案等を行う。

(6月15日、12月16日)

(5) 川ごみ団体との連携

1月28日 全国川ごみネットワーク 川ごみサミットへ出席

3 他団体や企業との連携

(1) 「海と日本プロジェクト」との連携 内陸域での啓発イベントの開催等 (前述)

(2) 他団体や企業、教育機関、マスメディア等とのコラボ事業に積極的に対応した。

4 広報啓発

(1) 環境展のブースへの出展等の機会を活用し、ゴミ発生源対策や令和2、3年度に作成した動画等を中心として、当フォーラムの活動の広報、環境保全の啓発に取り組んだ。

(2) 令和3年度から引き続き、映画「マイクロプラスチック・ストーリー ～ぼくらが作る2050年～」を上映する会事務局として活動(鶴岡市、川西町、南陽市等での上映協力)。上映に併せ、海岸漂着物標本、啓発資料展示、説明等を行う。修学旅行等でのスポGOMI、クリーンアップ活動と併せての上映を行った。

(3) SNSを活用した啓発を進めるとともに、フォロワー数増加のための仕掛け等を検討した。

1 最上川夢の桜街道づくり

- (1) 全市町村及び継続団体に対し、桜の維持管理等の要望調査を行い、樹木医を派遣。
- (2) 桜守育成のための研修会「桜守養成講座」、桜を地域資源として活かすための研修会等を地域部会と連携して開催した。
緑の環境づくり推進事業（やまがた森林と緑の推進機構）助成金を活用。
 - 1 1月5日 鶴岡市由良地区 講師：造園専門家 土田一彦氏 参加者 21名
 - 1 1月5日 鶴岡市ケヤキの森 講師：樹木医 砂山 隆司氏 参加者 7名
 - 1 1月6日 金山町有屋地区交流センター 講師：樹木医 山田 寛爾氏 参加者 13名
- (3) 県内の桜の名所や地域で愛されている桜をSNSで紹介する「～夢の桜街道～写真と灯りの展示会」巡回展示では、桜守の活動紹介もを行い、最上川・山形の桜の魅力を広く発信。
令和5年3月中旬から新シーズンの展示会を開催。

2 桜や水辺の写真を活用した情報発信

- (1) これまでの写真コンテスト入賞作品の貸出しを希望者に対して随時行う。
9月18日「かわとびあ2022in山形」（日本一の芋煮会フェスティバル会場内）ブースで、海岸漂着物問題啓発の展示、体験とともに水辺関係の入賞作品を展示した。
- (2) 「～夢の桜街道～写真と灯りの展示会」
全市町村に展示箇所の照会を行い、令和4年3月下旬から5月にかけて市町村の協力を得て巡回。桜の維持管理事業の紹介も兼ねた展示を実施。（前述）
 - 3月22日～4月1日 河北町役場1階ロビー
 - 4月4日～15日 朝日町エコミュージアムコアセンター創遊館ギャラリー
 - 4月15日～29日 白鷹町中央公民館町民ラウンジ
 - 4月18日～24日 尾花沢市役所1階
 - 4月25日～28日 山形市役所エントランスホール
 - 5月6日～6月5日 飯豊町めざみの里観光物産館
 - 5月17日～30日 高畠町道の駅たかはた
- (3) 山形県立図書館ロビーでの令和4年壁面展示に協力し前年度から引き続き写真を提供。
1階にて連携企画「サクラ咲く図書館」3月29日～4月30日

3 湧水活用事業

「里の名水・やまがた百選」・「環境省選定」湧水を地域の環境資産として着目し、製作したプロモーション動画やポストカード等の活用促進に取り組んだ。

4 地域おこしの紙芝居作成

- (1) 海岸漂着物紙芝居（令和3年度山形県視聴覚教材コンクール入賞）の上演、貸出しの積極的な発信を行い、動画の活用を促進した（東根市に貸し出し中、小学校での読み聞かせに活用）。
- (2) 2019年度からの継続した取り組みとして、村山・置賜地域部会の連携により、最上川にまつわる紙芝居製作を推進（最上川229ネットワーク（白鷹町）と連携）。
大石田町の紙芝居完成、動画を制作し、YouTubeで配信。
完成した大石田町の紙芝居「少年と最上川」が令和4年度山形県視聴覚教材コンクール優秀賞を受賞した。

- (3) 紙芝居製作のための取材、企画を村山・置賜地域部会連携により推進（村山市）。
- (4) これまで製作した紙芝居について、第26回水シンポジウム in やまがたでの展示と動画上映。

地域部会

◇置賜地域部会

- (1) 村山地域部会と連携した紙芝居づくり（4 地域おこしの紙芝居作成（2）参照）
- (2) 「スポGOMI大会」への協力
8月21日白鷹町
- (3) 最上川上流におけるクリーンアップ活動に参加協力
8月1日 白鷹町、長井市
- (4) 環境講座等の開催（最上川229ネットワーク（白鷹町）と連携）
- (5) 第26回水シンポジウム2022in やまがたの展示協力
- (6) 白鷹町ワンディフェス出展 12月11日

◇村山地域部会

- (1) 「～夢の桜街道～写真と灯りの展示会」協力
- (2) 「スポGOMI大会」への協力
10月15日山形市
- (3) 「身近な川や水辺の健康診断」の現地調査サポート等の実施協力
東海大学山形高等学校、山形県立霞城学園高等学校、長井市立長井小学校
- (4) 置賜地域部会と連携した紙芝居づくり（4 地域おこしの紙芝居作成（2）参照）
- (5) 最上川上流におけるクリーンアップ活動に参加協力
7月29日 寒河江市、天童市
- (6) 第26回水シンポジウム2022in やまがたの運営協力

◇最上地域部会

- (1) 「もがみの湧水調査会」
山形県で実施している「里の名水山形百選」への応募の働きかけを行う。
- (2) 「スポGOMI大会」への協力、現地団体との連携
5月15日金山町
- (3) 桜を守り育てる研修会開催、現地団体との連携
11月6日 金山町有屋地区交流センター
- (4) 「身近な川や水辺の健康診断」の現地調査サポート等の実施協力
新庄市立新庄小学校、新庄市立明倫学園、新庄市立日新小学校

◇庄内地域部会

- (1) 「身近な川や水辺の健康診断」の現地調査サポート等の実施協力
酒田市立平田小学校
- (2) 「スポGOMI大会」の開催、小学校対象、修学旅行対応など
7月9日鶴岡市
- (3) 「桜の育成維持管理研修会」現地団体との連携
11月5日 鶴岡市由良地区、鶴岡市ケヤキの森
- (4) 内川学関連事業の開催
3月18日 内川学フォーラム2023を鶴岡まちなかキネマで開催

全 体

1 総会・運営委員会・部会

通常総会（6月29日）

運営委員会（6月2日、11月30日、3月23日）

清流・環境対策部会及び最上川文化・地域経済活性化部会の合同開催（3月23日）

2 会員拡大等の取組み

(1) 4月から7月まで、県内金融機関の協力をいただいて会員募集キャンペーンを実施した。
新規加入は38会員。

(2) 法人及び団体の会員に対し、会費増額（一口3千円を1万円以上に増額）の要請を行った。
新たに5会員から増額申出をいただいた。

（令和2年度以降の増額会員の累計は58法人・団体）

3 「第26回水シンポジウム2022inやまがた」の開催

本県を会場に開催される「水シンポジウム」（土木学会水工学委員会主催）について、最上川フォーラムの20周年事業に位置づけ、実行委員会に参画するとともに、委託を受けて企画及び運営を担い盛会裏に開催することができた。

シンポジウムにおいて、20年にわたる最上川フォーラムの活動経過を発信するとともに、今後の運動の方向性についても多くの示唆を得ることができた。

【期日】 令和4年7月21日（木）・22日（金）

【場所】 （1日目）山形テルサ 参集者数：約300名（Web配信視聴者を除く）
（2日目）現地見学会（最上川、最上小国川など）

【メインテーマ】

未来へ引き継ぐ母なる最上川

～地球的視野に立ち流域全体で環境・文化・暮らしを守る～

【最上川フォーラムの役割】

① 第2分科会の企画運営

テーマ 『最上川流域の環境保全・文化継承活動の新たな展開』

コーディネータ 柴田洋雄 山形大学名誉教授、美しい山形・最上川フォーラム会長

パネリスト 佐藤五郎 最上川リバーツーリズムネットワーク代表理事

相原久生 酒田市立資料館調査員

今野正昭 最上川229ネットワーク共同代表

星野高宏 三郷堰土地改良区事務局長

② 市民団体等による発表の支援

1) 黒滝会様 テーマ『最上川の自然と遊ぶ ― おらんだのジオパーク ― 』

2) 特定非営利活動法人公益のふるさと創り鶴岡 様

テーマ『鶴岡市内川の環境美化活動及び河川環境保全に向けたゴミ排出削減
キャンペーンについて』

③ 会場展示の調整

展示参加者 黒滝会、最上川229ネットワーク、パートナーシップオフィス
三郷堰土地改良区、山形大学、山形工業高校、寒河江工業高校、
海と日本 in 山形

④ 現地視察会の運営補助

⑤ 実行委員会の事務局として会計経理

4 法人移行検討の終了

「新しい活動指針(案)」に基づく運営基盤強化の一環として、フォーラムの法人移行について法令及び制度等の調査研究を行うとともに、検討委員会を設置して実務的課題等について検討を進めることを6月2日運営委員会、6月29日通常総会に提案し承認された。

10月7日、11月25日に法人設立検討委員会を開催、法人移行の妥当性や懸念事項等を中心に協議を行った結果、法人移行は時期尚早との結論に至った。

3月2日に役員会議を開催し、役員会の設置をはじめ運営基盤強化の方策の見直しについて検討を行った。令和5年度においてさらに検討を進め、具体案をまとめることとする。

その他 委託事業・助成事業・連携事業など

1 委託事業・助成事業・連携事業など

- (1) 令和4年度 川～海をつなぐ「美しい元気な山形づくり」業務委託（山形県循環型社会推進課）
委託料：3,800,000円
 - ・スポGOMI大会開催
 - ・海岸漂着物問題普及啓発出前講座の実施
 - ・商業施設等での海岸漂着物問題普及啓発の実施
- (2) 最上川上流河川清掃活動（国土交通省東北地方整備局山形河川国道事務所）
委託額：403,800円
 - ・最上川上流8か所での清掃活動
- (3) 最上川河川愛護意識啓発活動効果調査（国土交通省東北地方整備局山形河川国道事務所）
委託額：649,700円
 - ・「川をきれいにする児童図画」応募図画整理取りまとめ
 - ・アンケートによる意識調査の実施、啓発活動提案
- (4) 「第26回水シンポジウム2022 in やまがた」開催運営支援委託事業
委託額：2,699,070円
 - ・「第26回水シンポジウム2022 in やまがた」開催運営支援
- (5) 運営体制整備事業費補助金（山形県）
補助額：4,434,048円
 - ・事務局長設置費
- (6) 緑の環境づくり推進事業（公益財団法人やまがた森林と緑の推進機構）
助成額：100,000円
 - ・桜の維持管理研修会の開催
- (7) 水環境保全助成事業（一般社団法人全国浄化槽団体連合会）
助成額：200,000円
 - ・「身近な川や水辺の健康診断」の実施
- (8) 寄付金（山形県最上総合支庁食堂）
寄付額：20,950円
 - ・寄付金付き定食（食べて応援SDGs地産地消定食）
- (9) 寄付金（山銀リース株式会社・一般財団法人山形県理化学分析センター）
寄付額：200,000円
 - ・「SDGs応援リース」寄付
- (10) 寄付金（山形信用金庫）
寄付額：100,000円
 - ・「SDGs懸賞金付定期預金」寄付
- (11) 山形県海岸漂着物対策推進協議会への参加
- (12) 全国川ごみネットワークとの連携
- (13) 「海と日本プロジェクト」等との連携
委託額：634,000円
テレビユー山形（株） 海ゴミバスターズ in 山形実行委員会 Change for the blue
 - ・海岸漂着物問題啓発事業
 - ・スポGOMI甲子園大会の運営
 - ・海ゴミ啓発映画上映共催、映画上映の際の展示や啓発動画協力

※敬称略